

評価コメント

- ・今後はPM2.5との相関も検討してもらいたい。そしてPM2.5とPM10とどちらを用いるのがよいかを明らかにしてもらいたい。
- ・研究者の職場が変わったので新たに大気汚染濃度があまり高くない地域での調査が加わったが、そのメリットがあまり生かされなかったのは残念である。各マーカーとの有意差はそれ程大きくないのでもう少し症例を増やしていくことが望ましい
- ・大気汚染地区の健康被害をEBCの分子マーカーやPH測定で評価することの有用性が明らかにされた。喘息予備軍の患者をスクリーニングすることにも応用が可能で、健診等における活用が期待される。
- ・大気汚染因子(NO₂、PM₁₀)と患者の気道炎症マーカーとの関連性を分析した調査研究として高く評価する。
- ・大気汚染の度合いが異なる地域での喘息例におけるリスク因子の評価指標としてのEBCマーカーの検討とPHの追加検討成績も一定の相関を示した。PM₁₀、PM₅、PM_{2.5}などのピーク値を平均濃度と併せてEBCのPH、分子マーカーとの相関を検討することを望む。
- ・東京の現状での大気汚染の程度が実際に喘息に影響を与えているのか否か、これまでの研究結果からは曖昧である。大変困難な仕事かもしれないが、何らかの結論を出して欲しい。
- ・喘息の有病率と幹線道路との距離の関係も調べてみる必要がある。そのためには研究員に疫学の専門家も加えるべきではなかったろうか。大変難しい研究であるが、当機構の趣旨にも沿った意義のある研究である。
- ・EBCのVEGFとPM₁₀の関連を明らかにした。またPHの有用性も理解しうる。大気汚染が著明に減少している現在、さらなる発想の拡大が必要と思われる。